

連結

売上高

1兆8,585 億円
(前年同期比 +11.2%)



営業損益

1,245 億円
(前年同期比 +170.7%)



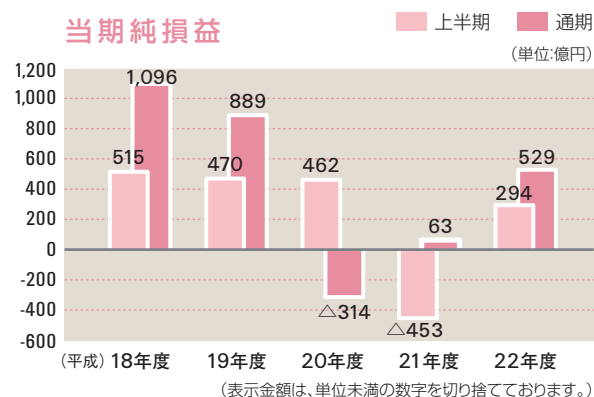
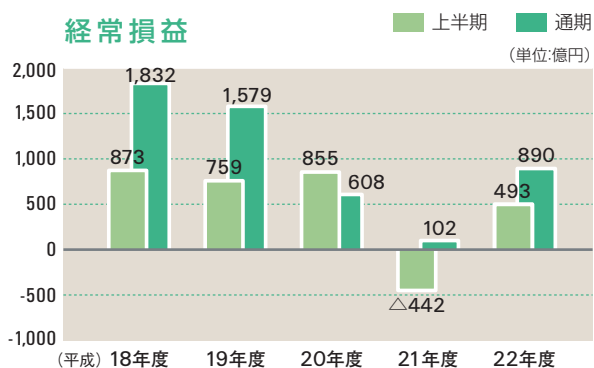
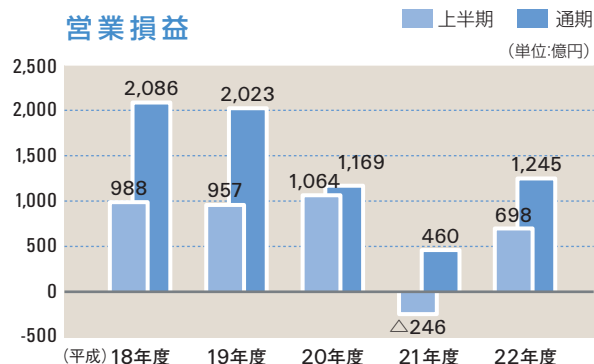
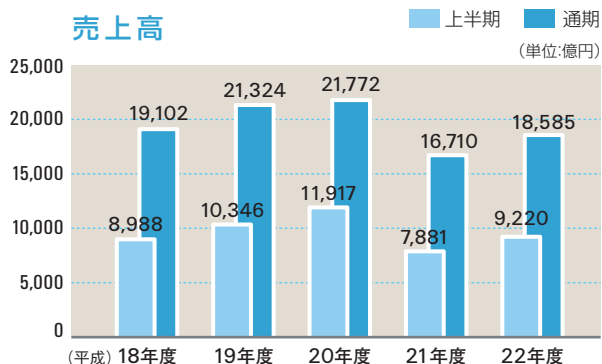
経常損益

890 億円
(前年同期比 +768.4%)



当期純損益

529 億円
(前年同期比 +739.7%)



当期の概況

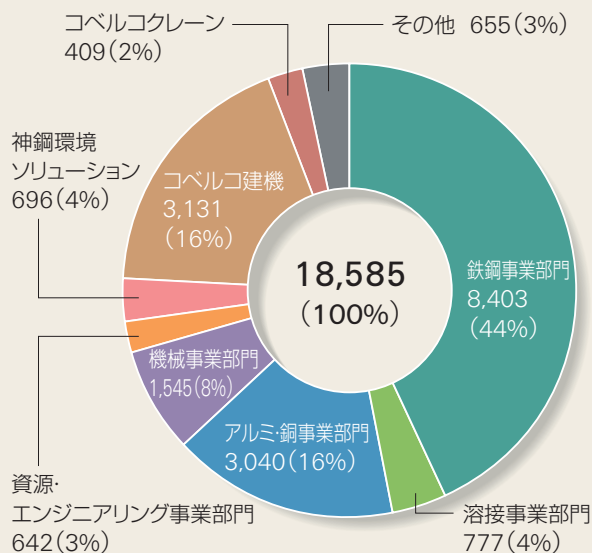
当期のわが国経済は、第3四半期に入り景気対策の縮小や円高の影響などにより、回復のペースに一服感がみられたものの、海外経済の改善を背景に、総じて緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大した他、米国、欧州においても、緩やかながら回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前期の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前期を大きく上回りました。

この結果、当期の連結業績は、売上高は前期に比べ1,875億円増収の1兆8,585億円となり、営業利益は、前期に比べ785億円増益の1,245億円、経常利益は、前期に比べ788億円増益の890億円となりました。また、当期純利益は、前期に比べ466億円増益の529億円となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ991億円増収の1兆901億円、営業利益は493億円増益の505億円、経常損益は409億円増益の281億円の利益となりました。また、当期純利益は、前期に比べ275億円増益の303億円となりました。

事業別売上高(平成22年度) (単位:億円)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額716億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,585億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)

鉄鋼事業部門

8,403 億円
(前年同期比 +13.2%)



鋼材需要は堅調に推移しました。

- 鋼材販売数量は、国内外における製造業向けの需要が総じて堅調に推移し、前期比増加。
- 鋼材販売単価は、原材料価格が値上がりした影響などにより、前期比上昇。
- 鋳鍛鋼品の売上高は、造船向けの需要が減退したことなどから、前期比減少。
- チタン製品の売上高は、需要家の在庫調整進展などにより、前期比増加。

- 経常損益は、在庫評価影響の大幅な改善もあり、前期比484億円増益の237億円の利益。



加古川製鉄所 高炉夜景



溶接事業部門

777 億円
(前年同期比 +2.1%)



溶接材料の販売数量は海外を中心に増加しました。

- 溶接材料の販売数量は、中国、東南アジア、韓国などアジア地域での需要が堅調に推移し、海外を中心に前期比増加。
- 溶接システムの売上高は、中国の建設機械分野向けの需要が旺盛に推移。
- 経常利益は、前期比28億円増益の46億円。



溶接材料



アルミ・銅事業部門

3,040 億円
(前年同期比 +16.1%)



アルミ製品、銅製品ともに、需要は堅調に推移しました。

- アルミ圧延品販売数量、アルミ鋳鍛造品売上高は、自動車、エアコン向けや液晶・半導体製造装置関連を中心に需要が堅調に推移し、前期比増加。
- 銅圧延品の販売数量は、板条の需要は第3四半期に入り半導体向けなどで需要家の在庫調整があり減少したものの、通期では堅調に推移。
- 銅管の需要は猛暑によりエアコン向けが増加し、前期比増加。
- 販売価格に転嫁される地金価格は上昇。
- 経常利益は、前期比125億円増益の147億円。



長府製造所



機械事業部門

1,545 億円
(前年同期比 △11.1%)



自動車および石油精製・石油化学業界などで設備投資が、緩やかに回復しました。

- 自動車および石油精製・石油化学業界などで設備投資が、緩やかに回復し、関連製品の受注高は、前期比増加。
- 当事業の受注高は前期比41.4%増の1,407億円。当期末の受注残高は1,522億円。
- 売上高は、大型の石油精製用高压反応器の売上計上が集中した前期に比べ減少。
- 経常利益は、前期比63億円減益の145億円。



石油精製向け 大型高压水素圧縮機



資源・エンジニアリング 事業部門

642 億円

(前年同期比 △2.0%)



大型還元鉄プラントを
受注しました。

- 大型還元鉄プラントを受注し、当事業の受注高は、前期比増加。
- 当事業の受注高は、前期比87.0%増の753億円。当期末の受注残高は、956億円。
- 経常利益は、売上案件の構成が異なったことなどから、前期比16億円減益の30億円。



還元鉄プラント(インドネシア)



神鋼環境 ソリューション

696 億円

(前年同期比 △16.0%)



大型の下水汚泥焼却処理設
備や廃棄物処理施設を受注
しました。

- 大型の下水汚泥焼却処理設備や廃棄物処理施設を受注し、当事業の受注高は、前期比11.0%増の648億円。当期末の受注残高は、350億円。
- 売上高は、大型の廃棄物処理施設の売上を計上した前期と比べ、減少。
- 経常利益は、コスト削減に取り組んだことなどから、前期比14億円増益の31億円。



兵庫西流域下水汚泥焼却処理場



コベルコ建機

3,131 億円

(前年同期比 +45.9%)



主力市場である中国で販売台
数が大幅に増加しました。

- 主力市場である中国での販売台数が、前期比大幅増加。
- 需要の回復が続く東南アジアや、需要が持ち直した国内の販売台数も、前期比増加。
- 経常利益は、前期に比べ207億円増益の263億円。



ハイブリッド油圧ショベル「SK80H」

※平成22年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)受賞



コベルコクレーン

409 億円

(前年同期比 △25.8%)



一部地域を除き需要が低迷しました。

- アジアの一部地域を除き需要が低迷し、販売台数は、前期比減少。
- 経常損益は、前期に比べ25億円減益の13億円の損失。

クローラクレーン
「CKE2500G」

etc

その他

655 億円

(前年同期比 △15.7%)



試験分析事業の需要が回復しました。

- 不動産販売において、分譲マンションの引渡戸数が減少。
- 試験分析事業において、輸送機、エレクトロニクス業界向けを中心に需要が回復。
- 経常利益は、前期比34億円増益の64億円。

神戸ハーバータワー
完成予想図リチウムイオン二次電池評価設備
(充放電試験装置)

業績に関する詳しい説明は、当社ホームページでご覧いただけます。当社ホームページでは、決算短信、IR説明会資料などを掲載しているほか、事業に関するご紹介も掲載しております。是非、一度ご覧ください。

当社ホームページアドレス <http://www.kobelco.co.jp>

